

平成 26 年度 経営協議会（学外委員）からの意見への対応  
（法人運営改善への活用）状況

	経営協議会（学外委員）からの意見	対応（法人運営改善への活用）状況
1	<p>第 5 回（平成 27 年 2 月 3 日） 経営・運用努力について示す際のエビデンスについて、意識や実態の調査数値止まりにしておくのは活用としては不十分であり、記述的証拠活用あるいは開発に力を注いでみる必要があると思われます。（教育・研究の営みをもっと喜怒哀楽に富んだ動態的活動であることを多くの人々に興味を持って理解してもらうための努力が必要と思われます。）</p>	<p>本学の教育の質保証及びその改善・向上に資することを目的に新たな、「教育及び研究に係る自己点検・評価」活動を実施した。本取組は、学内での自己点検・評価に加え、外部評価委員会において本学の自己点検評価結果の妥当性等を検証するものであり、学内外の意見を効果的に反映させるものとなるべく企図されたものである。</p> <p>この自己点検・評価において、まさに経営・運用努力について示すべくエビデンスを開発あるいは収集し、記述的証拠として活用することとなった。こうして、本自己点検・評価結果は、「教育及び研究に関する自己点検・評価報告書」として策定され、外部評価委員会においてステークホルダーでもある学外者に提示し、評価されることで、本学の教育研究を理解していただく重要な役割も担うこととなった。</p> <p>また、「教育及び研究に関する自己点検・評価報告書」は、「外部評価委員会評価報告書」と併せて学長に報告し、改善を要する提言・改善事項について対応するとともに、一般の方々にも本学の取組を理解していただけるよう大学ウェブサイトで公開した。</p>